

学びをつなぐ

県小学校長会会長
(岡山市立御南小学校長)

國府島 知子



二学期末のある日、一年生の担任から、嬉しい話を聞いた。「給食時間におしゃべりが止められず時間が守れないことが続くので、どうしたらよいか自分たちで考えるように投げかけました。すると、子どもたちが相互に指名しながら意見をつなぎ、言い間違えた友だちに温かい声を掛けたり、時々ユーモアも交えたりしながら、四十分間近く話し合いが続きました。一年生なりに自分たちで給食時間のルールを決め直すことができたんですよ！」担任の感動が、私にも伝わってきた。

このとき、以前、幼稚園の園長先生から聞いた話を思い出した。その園では、飼育当番を、年度当初は先生がする。そのうちに、手伝えたいという子が増え、世話をする順番やきまりを決めた方がよいという意見が出始めた頃に、子どもたちと話し合いをして当番を決めるのだそうである。

今回の一年生の話し合いは、このような就学前教育の学びと小学校での学びを、タイムリリーに、上手くつなぐことができた結果でもあろう。

本校には、三十園以上の幼稚園、保育園、

こども園等から子どもたちが入学してくる。

新学習指導要領のキーワードの一つである「主体的・対話的で深い学び」の質を高めるために、就学前の子どもたちが、それぞれの園でどのようなことを学んできたかを知ることが、これまで以上に重要になってくる。

また、もう一つのキーワードである「カリキュラム・マネジメント」を進める観点からも、一〜六年生、さらには中学校までの知・徳・体のバランスのとれた学びを、今まで以上に系統的・意図的につないでいく必要がある。

そして、こうした学びのつながりを全教職員が共通理解し、共通実践していくことが、教育の質の充実と働き方改革を両輪で進めていく上でも、重要になってくる。

さあ、もうすぐ放課後になり、先生たちが職員室に戻って来る。今日一日を振り返りながら、子どもたちの今日の学びを明日につなぐ準備が始まる。その中で、若手教職員も多くのことを学び、日々成長していく。

『我以外皆我師』、作家の吉川英治の言葉である。互いに学び続ける姿が、そこにある。